第15次吹田市水道事業経営審議会 第9回（Vol.141）

議 事 録（大要）

令和８年（2026年）9月24日

於.吹田市水道部 第二別館 研修室

【 出 席 者 】 尾﨑委員、松本委員、尾原委員、堀委員、上田委員、勝沼委員
鈴木委員、曽我委員、高柳委員、畑委員、中村委員、吉田委員

【 欠 席 者 】 生川委員、小椋委員、紙谷委員、田口委員、和仁委員

【 傍 聴 者 】 2名

議 事

1 諮問「健全経営の持続に向けた考え方と料金水準について」に対する答申

2 第15次吹田市水道事業経営審議会を振り返って

事 務 局 定刻になりましたので、ただ今より第15次吹田市水道事業経営審議会第9回の会議を開催いただきたいと思います。

本日は、第15次水道事業経営審議会の最終回ということで、後程、本審議会の答申書を水道事業管理者職務代理者 水道部長へお渡しいただきます。

なお、本日はあらかじめ、生川委員、小椋委員、紙谷委員、田口委員、和仁委員から欠席の御連絡をいただいております。それでは、会議に先立ちまして、会長から御挨拶をいただきます。

会 長 (挨 拶)

事 務 局 本日は、委員17名中、12名の出席により、過半数を超えたため、水道事業経営審議会の会議は成立しました。

（傍聴希望者及び資料確認）

会 長 それでは、議事に入りたいと思います。本審議会は、議事の公開が原則となっております。本日の傍聴希望者は2名で、規定の範囲内ですので、入室していただきます。

それでは、次第に沿って進めていきたいと思います。

1番「諮問「健全経営の持続に向けた考え方と料金水準について」に対する答申」は、事務局にて進行をお願いします。

事 務 局　それではただ今より、会長、副会長より答申書の受渡しをしていただきます。
会長、副会長、部長、恐れ入りますが、前方中央にお進みいただきますよう、お願いいたします。
（答申書の手交）

事 務 局　ありがとうございました。席にお戻りいただきますようお願いいたします。
それでは、配付しております答申書を御用意ください。
本答申につきましては、前回の会議で会長と事務局にて整理し、今回提出することで御確認いただいております。前回の会議でいただきました御意見を踏まえ、内容や方向性を変更しない形で会長と事務局とで整理させていただきました。
水道部次長より読み上げますので、御確認いただきたいと存じます。
（答申書の読上げ）

事 務 局　ここからの議事の進行につきましては、会長にお預けさせていただきます。

会　　長　冒頭にありましたとおり、皆様からいただいた御意見の内容や方向を変更はせず、言葉を補わせていただく形で、私と事務局で整理をさせていただきました。御確認いただきありがとうございました。
では、次の議事に移りたいと思います。次第の2番「第15次吹田市水道事業経営審議会を振り返って」ということで、委員の皆様から審議に携わった御感想や御意見を承りたいと思います。特になければ、「特にありません。」ということでも構いません。時間の関係もございますので、1人1～2分程度でお願いしたいと思います。

委　　員　今期は「すいすいビジョン2035」の策定や水道料金のあり方といった非常に中身の濃い審議が行われましたが、その内容が水道使用者である委員や市民の方になるべく分かりやすく伝わるように努められており、すごくレベルの高い事業体だと感じました。また、広報や広聴にも非常に積極的に取り組んでおり、とても心強いと感じています。全国の水道事業体に共通して言えることですが、努力を上回るほど非常に厳しい経営状況にある中で、今後も市民へ持続性のある水道供給を続けていけるよう取り組んでいただければと思います。ありがとうございました。

委　　員　これまでは学術の立場でデータを用いて水道を分析していましたが、2年間審議会に参加させていただいたことで、1事業体だけでは解決できないような課題に対し日々試行錯誤されている姿勢や、資料を見ているだけでは感じられない職員の皆さんの熱量や知識を事務局の丁寧な説明を通じて感じることができ、今後も水道について学びを進めていくに当たり、非常に参考になりました。

私は研究や授業の際に「水資源」を「地域資源」と表現しますが、水道料金に関する審議の中で、地域経済や地域住民の生活など複雑で多岐にわたる要素を総合的に考えて政策決定をされていることやその決断の難しさを感じ、今後、何か出来ることはないかと思っているところです。ありがとうございました。

委　　員　委員の皆様、会長、副会長、そして水道部の皆様、2年間大変お世話になりありがとうございました。

今まで当たり前のように使っていた水道が、本当に多くの方々の努力と長期的な計画、そして健全な経営によって支えられていることを改めて知ることができました。

また、新しくなった近所の公民館に給水機が設置され「安心安全な水を提供できる公民館になりました」と聞いて疑問を感じたことや、委員になって「水道いどばた会議」の取組を知ったことをきっかけに、私の地元の自治会と福祉委員会で、2度「水道いどばた会議」を開催することができました。その節は、大変お世話になりありがとうございました。参加者からも「普段当たり前のように使っていたけど、水道部の皆様が水道を守ってくれているんだな」といった声が多く、私自身も大変勉強になりました。

家庭や事業者などそれぞれ使用状況によって水道料金の負担額が異なる中で、生活上の様々な事情により料金の負担が難しい方もいらっしゃると思いますが、独立採算制が原則である以上、水道料金の中で対応するのではなく、福祉や生活支援などの施策の中で支えていく必要があるのではという考えに至り、提出させていただいた意見が答申に載せていただけたのは嬉しかったです。

これからは一市民として、水道事業を見守り続け、応援していきたいと思っています。

委　　員　2年間ありがとうございました。

私にとっても水道は本当に身近で当たり前過ぎるがゆえに何も知りませんでしたが、審議会への参加を通じて、水道の供給システムや財源確保や事業経営の方法、政策的なことについて学ぶことができ大変勉強になりました。また、令和9年（2027年）に給水開始100周年を迎えるということで、多くの先人たちも含めた水道部の皆様の大変な努力があって、安心安全な水道が使えていることを実感し、感謝しております。任期後半の諮問審議につきましても、料金改定の必要性について未来志向の審議をすることができ、本当に良かったと思っております。

第16次の審議会委員もさせていただきますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

委　　員　この2年間大変勉強になりました。市長が出席された際に、使用した水道の量に応じて下水道の使用料が決まるとおっしゃられたことで、長年の疑問であった下水道使用料の考え方や上水道と下水道の関連が良く分かったことが1番ありがたかったです。

また、市民が水道部を最も身近に感じるのは「使用水量・料金等のお知らせ」だと思っています。「使用水量・料金等のお知らせ」を見ながら、料金の計算をしてみましたが、記載の金額になりません。ど

のように計算しているのかはっきり教えていただきたいというのが私の正直な思いです。
今までの疑問が解決し、いろいろな水道のことを勉強させていただきこの2年間とても有意義でした。
ありがとうございました。

委　　員　3期にわたり委員をさせていただいたので今期で終わりかと思っていましたが、次期も参加させていただくことになりましたので引き続きよろしくお願いします。
水道の事故があるたびに、吹田市は大丈夫かと市民の方はとても不安になると思いますが、吹田市は計画をきちんと立て着実に水道管の工事等を進めていただいており、またその進捗状況なども審議会で報告いただいているので、私は大きな災害が起こらない限り、大きな事故にはならないと思っています。水道事業は安心、安全、安定して水が供給されることが1番大事だと思っているので、今後も民営化されないよう、吹田市が責任を持って事業を進めていただければと思います。

委　　員　2年間本当にいろいろなことを勉強させていただき、ありがとうございました。
他の委員もおっしゃられましたが、今までは水が出るのは当たり前という感覚でいたので、自分がどれだけの水を使っているかも知らない、関心がないという日々でした。また、市内で水道管の工事を見かけた際はいつまでしているのだろうと思っていましたが、委員をさせていただき、そうした取組がいかに大切であるかを知ったことで感謝に変わり、市内に740kmある水道管を1年間で8kmしか更新できないことなどについても勉強させていただくことで、水道部の皆様がいかに一生懸命取り組まれているのかも感じることができました。
諮問審議の料金の改定に関しては、私個人ではなく、市民生活への影響等もいろいろと考え、本当に悩みました。
審議会でいろいろなことを聞き、勉強する中で、知るということがいかに大事か分かったので、これから少しずつでも周りの人に水道事業のことを伝えていきたいと思いました。
次期も委員をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

委　　員　皆様2年間お疲れ様でした。
会長、副会長におかれましては、この難しい議題のとりまとめや進行は大変だったと思います。
水道使用者として審議会に参加していますが、実際は水道事業者に近い仕事をしていますので、その立場で皆様の意見を聞いていると、水道の大切さや水道事業者の使命を水道使用者にどれだけ理解していただけるかが、これから先も水道を持続させるために非常に必要なことだと感じました。
次期も委員をさせていただきますので、引き続き皆様に共感いただけるような会議にしていければと思っています。

委　　員　他の委員もおっしゃられましたが、じゃ口をひねるとすぐ水が出るという当たり前の環境を維持していただいている水道部を始め関係各所には感謝したいと思っております。一方で、答申にあるように水道の使用量が減少していることや運転資金の問題等、課題が非常に多い現状がありますが、意思決定までにあまり時間がないかと思っていますので、より納得性の高い料金設定を検討いただき、広く市民に周知していただくことをお願いしたいと思っております。

委　　員　2年間審議会に参加させていただき、安全で美味しく安価な水を供給するために、水道部の皆様がすごいことをされていることがやっと分かりました。他の委員もおっしゃっていたように、水が出て当たり前と思われている中で、それを支えるために水道部の皆さんが縁の下の力持ちとしてだけではない仕事をされていることが分かりましたので、水道部の仕事についてもっと発信されるべきだと思います。

また、「使用水量・料金等のお知らせ」をしっかり見ていると令和8年4月の「使用水量・料金等のお知らせ」には「飲み水の確保、備蓄をしていますか。1日1人3L、3日間で9L備蓄しましょう」というメッセージが書かれていました。水道事業をPRするためにSNSを活用するのは当然かと思いますが、年配の方などSNSにあまり積極的でない方も「使用水量・料金等のお知らせ」は丁寧に見ると思いますので、1、2行程度でも良いので豆知識のようなものを入れてはどうかと思いました。例えば、水道水をそのまま飲める国は9か国程度で、じゃ口をひねると水が出て、その水をそのまま飲むことができるのは世界レベルでとても恵まれているということをもっとPRすべきだと思いました。

私はこの審議会を通じて、吹田市水道部の応援団になったつもりです。市民の方とお話する機会があった時には、「ペットボトルの水は1Lで200円くらいだが、水道水は1000Lで200円くらいとこんなにも安いんだ」ということなど、応援団として今後もいろいろとPRしていきたいと思います。ありがとうございました。

副 会 長　会長を始め、委員の皆様、事務局の皆様、お疲れ様でした。私は副会長を2期務めさせていただきましたが、本日の会議が最後となります。委員の皆様から貴重な御意見や御感想をいただきましたので、私個人の感想を少しお話しさせていただきます。

私は元々大阪広域水道企業団の職員でしたので、水道事業の経験者という立場でこの審議会に参加させていただきました。企業団職員として事務局の経験はありましたが、委員として審議会に参加するのは初めてで、吹田市水道事業ビジョンの見直しや料金水準の見直しに関する審議に参加させていただき、委員の皆様の積極的な御発言や御意見を聞くことで勉強になりました。また、皆様と一緒になって答申をまとめることができたことも大変良い経験となりましたし、今後この経験が何か役に立てば良いなと思っております。

事務局においても、若い方を中心に非常に分かりやすく説明いただいたので、事前準備も丁寧にされているのだろうなと参加するたびに感じておりました。料金水準の見直しについては、事務局の皆様は

これから議会等への説明などいろいろと御苦労はあるかと思いますが、ぜひスケジュールどおりに進めることができるよう、私も吹田市水道事業の応援団の1人として応援していこうと思っています。引き続き頑張っていただきますよう、お願いしたいと思います。

会　　長　ありがとうございます。

各立場から非常に多くの御意見をいただき、答申という形に出来たことは非常に有意義であったと思います。「すいすいビジョン」と比較するとページ数は少ないですが、5つの視点で多角的に書くことで、今後の吹田市水道事業の経営のあり方に対する考えの土台となるものができたのではないかと思っております。答申案作成に向け、書面にて御意見の提出を依頼した際には、私自身も驚くほどたくさんの御意見をいただき、答申書という成果につながり良かったと思います。改めて皆様に感謝申し上げたいと思います。

私は他市水道事業の審議会委員もしていますが、ホームページに公開されている吹田市の資料を参考にして資料を作成したと言われるほど非常に分かりやすい資料を作成されています。また先ほど、水道事業を理解できたのでこれからは応援団になる、近隣の水道工事についても一定の理解ができるといった御感想をいただきましたが、あらゆる世代に対し、多様な方法を使って積極的に広報を進め、水道事業を理解していただくことが重要かと思います。吹田市独自の方策である「水道いどばた会議」は、少人数に対する地道なものですが、膝を突き合わせて行う取組は重要だと思いますので、今後も継続していただきたいと思います。委員の皆様には、吹田市の水道事業に関して、様々なところで御発信いただければありがたいと思います。

答申書では料金改定の内容そのものではなく方向性を示しましたが、人口が増加していた時代は一度料金改定をすれば10年、15年程度は料金改定をせずに事業運営ができていましたが、人口減少に伴い有収水量も減少していくことが分かっている現状においては、適切なタイミングで料金改定をしていく必要があると思います。一方で昨今の物価高騰で各家庭の負担が増えていますので、激変緩和という形で国から財政措置がなされることもあるかと思いますが、今後料金改定の際には、市民への配慮という観点で市の一般財源からの支出を含めた激変緩和という形で物価高騰対策のような対応も併せて市長に相談するなど、前例にとらわれない方法も必要になってくると思います。

事業運営に関して、答申の4番目にある人材やDXについて、多くの水道・下水道の事業体がDXという言葉を掲げ始めていますが、DXが目的化している節があることを懸念しています。DXを進める当初は費用負担が増える部分があったとしても、ゆくゆくは改善することを見込みながら進めていく必要があると思いますので、今後、事業経営や効率的な業務執行に資するDX化は必要かと思います。

人材について、私は関西大学の都市システム工学科で教員をしており、授業で上水道や下水道について教えていますが、技術的な内容の話はしても、経営そのものの話をすることはありません。元々銀行員だった人が水道事業の経営部門の職員になっている事業体もある中で、例えば経営を専門とする

人やDXを専攻してきた学生の採用を試みるなど、今までとは少し発想を変え、組織の中で人材を育成するだけでなく、専門的な知識を持った人材を獲得するようなことも必要になると思います。

先ほど、インフラの仕事をしている人は縁の下の力持ちというような話があったかと思います。私は医師と一緒に研究することがありますが、疫学の研究や分析をするよりも医師になりたいと言う医学部生が多く、それは感謝されると嬉しいからだと聞きました。インフラ事業も似ており、水は出て当たり前で出ないと怒られるというように、感謝されることはなかなかないということも一因かもしれませんが、公務員離れが顕著になってきています。市職員の魅力やいかに良い仕事をしているのかを発信することを発信方法も含め考えていただければと思いますし、吹田市の水道事業の継続のために、良い人材を獲得し、技術を継承し、育成していっていただきたいと思っております。私自身は、日本水道新聞社の『水道公論』でもお話しましたが、縁の下の力持ちというだけでは社会的に認められないこともありますので、インフラの仕事をしている人たちをいかに知っていただき、どうすれば評価されるかといったことを考えていきたいと思っています。

今回本当に多くの御意見をいただき、良い答申が出来たと思っています。最後に改めて感謝を申し上げたいと思います。皆様ありがとうございました。

本日の議事は、全て終了いたしましたので、事務局にお返しします。

事 務 局　会長ありがとうございました。

最後に、水道事業管理者職務代理者　水道部長よりお礼の御挨拶を申し上げます。

部　　長　（挨 拶）

事 務 局　それでは、閉会といたします。ありがとうございました。